

割当成分

割当成分 わりあてせいぶん

米国公衆衛生院国立がん研究所（NIH/NCI）では、1985年NIH放射線疫学表（NAS/NRC, 1984）を作成し、各がんの原因の確率（Probability of Causation）を示した。これは、原因確率 $PC = (\text{放射線誘発がんリスク}) / (\text{自然がんリスク} + \text{放射線誘発がんリスク})$ によって、被ばく補償を行うためのリスク評価法である。この疫学表は2003年に改訂版が示された。リスク評価法は、ポアソン回帰分析（AMFIT）が使用され、性別、被ばく時年齢、到達年齢、被ばく経過年数が考慮されている。しかし、この計算値は確率ではなく、また、集団における割り当てたがん死亡の成分であることから、PCから“割当成分”AS（Assigned Share）に変更されている。それゆえ、 $AS = ERR / (1 + ERR)$ （ERR：過剰相対リスク）であり、これで被ばく補償が行われる。米国では、被ばく退役軍人及びDOE職員の職業被ばくの補償に使われている。日本での従事者放射線被ばく補償に際しても参考にされた。

<登録年月>

2005年09月
